

常任委員会 特別委員会



12月から運行を予定しているコミュニティバス（イメージ図）



まちなか再生事業調査特別委員会の様子（10/1）

総務文教常任委員会

第5回（9月1日）

- ・教育委員会委員の選任について
- ・情報公開条例の一部改正について
- ・個人情報保護条例の一部改正について
- ・行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の一部改正について
- ・庁舎外構設計について
- ・既存建物解体等工事について
- ・庁舎駐車場隣接民有地等の取得について
- ・過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の制定について
- ・合葬墓条例の制定について
- ・過疎地域持続的発展市町村計画の策定について
- ・社会教育委員条例の一部改正について

産業福祉常任委員会

第5回（9月2日）

- ・有害鳥獣駆除事業について
- ・経営継承・発展等支援事業について
- ・森の健康館及び山村体験宿泊施設の指定管理について
- ・手数料徴収条例の一部改正について
- ・予防接種健康被害調査委員会条例の一部改正について
- ・下水道管理センター建築改修・耐震補強工事の設計変更について
- ・下水道管理センター機械設備改築更新工事の設計変更について
- ・地域公共交通に係る令和3年度実施事業について
- ・コミュニティバス条例の制定について

議会広報常任委員会

第6回（8月23日）

- ・まちなか再生事業調査特別委員会チラシの編集について

第7回（10月15日）

- ・議会報183号の編集について

議会運営委員会

第8回（9月8日）

- ・第7回津別町議会定例会の運営について
- ・令和2年度各会計決算の認定について
- ・意見書等の取り扱いについて

第9回（10月15日）

- ・第8回津別町議会臨時会の運営について

まちなか再生事業調査特別委員会

第3回（8月13日）

- ・まちなか再生について

第4回（8月27日）

- ・まちなか再生について

第5回（9月16日）

- ・まちなか再生について

第6回（10月1日）

- ・まちなか再生について

議会を傍聴してみませんか

会議当日の受け付けで傍聴できます。気軽にお越しください。

※日程は、町のホームページで確認していただくか、議会事務局へお問い合わせください。

町長行政報告

報告された事項

第7回定例会

（9月16日）

- 寄附
- 台湾からのマスク寄贈
- 固定資産税の課税誤り
- 農作物の状況
- ヒゲマによる人身事故の発生
- 高齢者に対するお祝い
- 新型コロナウイルス
- 新型コロナウイルス・ワクチン接種
- 新型コロナウイルス感染症「緊急事態宣言」発令に伴う公共施設の開館状況
- 公営住宅の明渡請求訴訟
- まちづくり懇談会
- 建設工事等の発注状況

第8回臨時会

（10月15日）

- まちなか再生事業にかかわる住民意向調査
- つべつ紅葉マラソン大会
- 地域連携特例校等の再編整備に係る意見交換会
- 全国育樹祭への参加



津別町議会「まちなか再生事業調査特別委員会」報告

今回の議会報では、8月27日、9月16日、10月1日と開催された3回の特別委員会の内容を報告します。

第4回まちなか再生事業調査特別委員会（8月27日）

まちなか再生事業に係る意見募集の進め方について

町側より、全戸配布する資料の説明を受け、議会から出された要望は次のとおり。

- 意向調査の回収は郵便を使うこと
- 調査内容に財政に関する選択肢を増やすこと
- 調査内容の項目を入れ替えること

次に、まちづくり懇談会の日程について説明を受けた。議会からは、どの団体と懇談するのか、アルファコートは同席するのかなどの質問が出された。

まちなか再生事業に伴う予算補正について

最後に補正予算についての説明を受け、それに対する質疑を行い会議は終了した。

第5回まちなか再生事業調査特別委員会（9月16日）

アルファコート棟との基本協定書の締結について

町の説明

アルファコートと7月7日に覚書を締結した経緯は、昨年6月のプロポーザルで優先交渉権を得た時に覚書を交わすところだったが、優良建築物整備事業の補助金を前提にした覚書であったが、事前協議に時間を要したため、そのタイミングを逸してしまった。今回、ドラッグストアが来店可能とした段階で覚書を結んだもので、本委員会には「事前にお諮りすべきだったもの」と反省している。これから結ぶ基本協定書には、事業費の総額が記入されることになる。

委員の質疑

- 優先交渉権を得たアルファコートだが、民設民営から公設民営に変わっているなかで、優先交渉権が継続しているのは法的に問題ないのか。
- 債務負担行為を議決しないで覚書を結んだのは、地方自治法に抵触しないか。

- 民家等の解体事業について、整備事業に含めず、解体単独で津別の業者に発注することはできないのか。
- 町内建設業者との連携が努力義務では不十分ではないか。

- アルファコートは予算議決を伴わないで町の業務を行ったことにならないのか。

町の回答

- プロポーザル時の要求水準では、建築後の所有区分が変更になります。しかし、プロポーザルで評価された事実の変更はなく、優先交渉権は生きていると判断しますが、問題ないか確認をします。
- 覚書締結の時点では事業費には、不確定な部分も多くありました。今後、事業費の上限を記載した協定書を結ぶ前に債務負担行為等の予算補正を予定しています。
- 解体事業の発注方法については検討していきます。
- 町内建設業者が事業に加わることは、努力義務ではなくプロポーザル時に条件として謳っています。
- アルファコートが予算議決前に行った業務は、今後の事業費に組み込まれることはありません。

意見募集集計結果について

町の説明

9月6日から始まったまちづくり懇談会には、11回で194人が参加。住民意向調査は、9月13日までの集約で507人から提出があった。図書館、交通拠点、スーパーマーケット、ドラッグストアの整備施設の期待度は、年代層で考え方が分かれている。自由記述にもたくさんのご意見をいただいているので、今後、分析をして公表していきたい。

委員の質疑

- 世代間で分断が起こらないよう、分析と公表については十分配慮して出してほしい。
- 調査結果の町の判断は、今日は出さないとということか。

町の回答

- 今日は速報値ということで報告したので、分析はこれから、伝え方も含めて検討していきます。

今後の進め方について

町の説明

市街地総合再生基本計画推進協議会は9月21日に予定している。予算補正は10月臨時会を予定し、補正後に協定書

の締結を予定するので、次の特別委員会で修正した協定書及び事業契約書の案を提示する予定。

委員の質疑

- 図書館などは建設を進めて、ドラッグストアは時間をかけて協議することはできないか。
- ドラッグストアと図書館・スーパーの建設位置を入れ替える検討はどうか。

- 図書館とスーパーを別棟にする検討はどうか。

町の回答

- ドラッグストアの開店が令和5年5月で、延びることは取締役会の判断になります。
- ドラッグストアが希望する店舗面積から、入れ替えは厳しい。スーパーも国道側を希望しています。
- 図書館の別棟は経費も大きくなります。

第6回まちなか再生事業調査特別委員会（10月1日）

津別町市街地総合再生基本計画推進協議会における議論について

町の説明

9月21日に第4回推進協議会を開催した。意向調査の結

住民意向調査結果の分析や開発事業者との 覚書協定書、整備費予算などを協議

果を受けて、ドラッグストアのみ期待しないとの回答が多く、町としては、今回分析の結果を踏まえ方向性を示したいと考えている。

ドラッグストアに関して、利便性を考えたらあった方がよいが、財政負担を考えたら不安だとの声が多く、ニコットでは物足りなく、ベビー用品が少ないなどの意見も出ている。今後、推進協議会では、施設が必要か必要でないか、それは何故なのかを次回において検討していくと考えている。

委員の質疑

●推進協議会と議会の議論は並行して進めるべきで、推進協議会の審議のスピードを心配している。

●推進協議会の会長、町、委員との意思がマッチしていないのではないかと。今後、どのように進めていく考えなのか。

●推進協議会と議会との距離感は大変にしたい。会議中に出された質問や意見は、その都度解決していくようにすべきである。

●推進協議会の目的を明確にして、不満が残らないよう進めてほしい。

●商工会の方は、ドラッグス

トア誘致に反対しているが、町は商工会との関わりをどう進めるのか。

町の回答

推進協議会の進め方については、町としてきちんとした説明をし、理解を得ながら議会とも並行して進めていきます。

●ドラッグストアは、地域との連携を重視している会社ですので、今後、商工会と一緒に話合う機会を考えていきたいと思えます。

事業に対するこれまでの意見等への回答について

町の説明

意向調査の事業に対する町民からの意見等への回答について、今後も町民説明会や懇談会を開催し、丁寧な説明をすることで理解を求めている。

意向調査結果の分析について

町の説明

①期待度と年代の関係
大まかに分けると50代以下では、30代の交通拠点を除きすべての施設で、期待するが期待しないを上回り、60代と70代以上ではドラッグストア

の期待度がともに約35%と低くなっている。

②期待度の低い項目に対する分析

30代の交通拠点では、マイカー移動が多い世代と考えられる。ドラッグストアでは、70代以上の期待度が3割を切る結果となり、さまざまな要因が考えられるが、将来の財政負担に対する不安を挙げている声と比較的多くなっている。また、「町民の友」のチラシや街頭での宣伝活動があったことも影響を与えたと推測される。

③実人口による期待度の補正
人口率で補正した期待度は、図書館、交通拠点、スーパーマーケットは大きく変わらないうえ、ドラッグストアはかなり拮抗した値になっている。

④意向調査を受けての町の考え
方将来の財政負担に対する心配や次世代へ借金を残さないで欲しいとの意見が、年配の方に多くあった。また、税金が上がる、保険料や公共料金が値上げされるといった話を疑わない町民も多くいることもわかった。これらの誤解や思い込みは、正しく理解されるように努めていく必要がある。

委員の質疑

●意向調査で、期待度の低い部分の意識と同時に、期待度が高いものへの意識も必要。

●住民の誤解を解いていく努力、誤解を解き住民の合意が得られるまで、前に進めるべきではない。

町の回答

今後は説明の場が必要であり、理解されるよう努力していきたいと思えます。

予算補正について

町の説明

前回の特別委員会でも出されていた、アルファコートが優先交渉権を継続していることは問題ないのかについては、図書館、交通拠点、スーパーマーケットを整備することの変更はなく、すべてが町有施設となる所有区分の変更は、双方が了承していれば問題ない。それは、関係機関に確認している。

また、予算措置前の覚書締結については、覚書締結については覚書には金額の記載がなく、この時点での予算措置は必要ないと考える。事業費が確定した段階で債務負担行為等の予算補正を行った後、

協定書の締結となる。

10月15日の臨時会には、予算の提案はなく、事業の方向性が決まり次第、事業費総体を予算措置して進めていきたい。



●まちなか再生事業調査特別委員会委員長 山内 彬

意向調査及びまちづくり懇談会が終わり、その結果等について協議を行いました。

特別委員会としては、住民意向調査及び出された意見等を充分尊重し、結論を出すこととなります。

特にこの事業は、企業誘致も含まれていますので、町民合意が不可欠かと思えます。

丁寧に説明をし、ステップ毎にどのように進行されるかの情報を共有し、目指すべき姿が公表され、議論が望ましい方向へ進む取り組みが必要で

議会日誌

8月

- 5日 北海道町村議会議長会臨時正副会長会議（札幌市）
- 13日 第3回まちなか再生事業調査特別委員会
- 23日 第6回議会広報常任委員会
- 27日 第4回まちなか再生事業調査特別委員会

9月

- 1日 第5回総務文教常任委員会
- 2日 第5回産業福祉常任委員会
- 8日 第8回議会運営委員会
- 16～17日 第7回津別町議会定例会
- 16日 第5回まちなか再生事業調査特別委員会
- 17日 第1回決算審査特別委員会

10月

- 1日 第6回まちなか再生事業調査特別委員会
- 15日 第9回議会運営委員会
第7回津別町議会臨時会
第7回議会広報常任委員会

議会報告会 を開催します

津別町議会では、議会の役割や活動内容を広く町民の皆さんに知っていただく機会として、下記のとおり「議会報告会」を開催します。

参加者との意見交換の時間も予定していますので、多くの方のご参加をお願いします。

昼と夜の2回の開催を予定していますので、ご都合の良い時間にご参加ください。

開催日時・開催場所

日時 11月11日（木）

場所 町民会館（講堂）

昼の部 午後2時から

夜の部 午後6時30分から

（昼の部・夜の部 1時間30分程度）

問い合わせ先

津別町議会事務局 TEL 77-8393

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、発熱または風邪の症状がある方はご遠慮ください。

なお、参加される方はマスク着用をお願いします。

意見書

関係行政庁へ
提出しました

- コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書
- 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書
- 安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための意見書
- 北海道に高レベル放射性廃棄物最終処分場の受け入れ拒否を求める意見書

～議会の録画映像を配信しています～

インターネットを利用した録画配信を行っています。「You Tube」による配信に変更しました。定例会の様子は会議終了後、1週間前後で配信する予定です。

町のホームページにアクセスしてご覧ください。



〈津別町ホームページ〉

<https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/>

は ぐ る ま

9月定例会で、今年度4月から9月現在までの母子手帳発行数が7件との報告を受けました。

ここ数年、身近にこども園ができ子どもたちを見る機会が増えていた反面、年度半ばとはいえ1年間の出生数20人の壁を感じました。振り返れば、今年成人を迎えた2000年生まれの息子がち世代は、40人台と記憶していたので、津別においての少子化対策の必要性を改めて重く受け止めたところです。

子どもの減少は、津別高校の入学者数にも大きな影響を与えています。選ばれる学校の魅力が急務と言えます。一方、45%に及ぶ高齢化率から、病院の存続や福祉施設への要望や期待も大きくなっています。施設の老朽化と支える人材の不足が慢性化している現状があります。

津別町が若い子育て世代から選ばれるために必要なこと、例えば、津別に戻って来る原動力として、医療や福祉に目を向け進学した子どもたちへの支援の充実が必要と感じます。
(渡邊)